

ベトナムで作業療法の普及活動を目指す高知県人

① 自己紹介

JICA ボランティアとして 2018 年 7 月 2 日よりベトナム社会主義共和国に派遣、作業療法士として活動している濱田瑞葵と申します。これまでの生活を振り返ると、私は青年海外協力隊に参加するまで波乱万丈な人生を歩んでいました。

私は岡山県高梁市にある吉備国際大学保健科学部作業療法学科を卒業後、高知にある総合病院で 4 年間勤めていました。

今思えば大学生の頃、作業療法を学んでいるうちに「国際的なリハビリの仕事がしてみたい、日本と海外のリハビリの違いを知りたい」という夢を持つようになりました。社会人になってからは、その夢に向けて語学の勉強や必要な費用の準備はしていたものの、ただ時間だけが過ぎていました。私は「このまま時間だけが過ぎていくのは嫌だ」と思い、恩師に相談するため母校を尋ねました。すると「青年海外協力隊に参加してみたらどうか」と助言を貰い、この一言が私の背中を押してくれました。応募に至るまではなかなか足を踏み出せずにいましたが、自分の力を試してみたい、その国に住んでいる人達の生活をリハビリテーションの力で支援してみたいと考え、2017 年の春に青年海外協力隊に応募しました。その後は無事合格し、2 か月間の研修を終えて現在、ベトナム社会主義共和国のカントー市にあるカントー総合中央病院でボランティア活動をしています。



<カントー総合中央病院の仲間たちと>

② ベトナム社会主義共和国について

ベトナム社会主義共和国は、東南アジアのインドシナ半島東部に位置する国です。北は中華人民共和国、西はラオス、南西はカンボジア、東と南は南シナ海に面しています。

ベトナム社会主義共和国の特産物としては果物や農産物、コーヒー等が有名です。観光地としても世界遺産やリゾート地が沢山あり、近年、日本人旅行者も増加傾向にあります。世界遺産を堪能したい方は北部にあるハロン湾やダナンのミーソン遺跡、ホイアンの日本橋、フエにある王宮等がおすすめです。リゾートを堪能したい方にはダナン・ニャチャン・フーコック島の海がおすすめです。欧米人の観光客が多く、ベトナム社会主義共和国とはまた違う世界に連れて行ってくれます。

私が住んでいる地域ではカントー水上マーケットが観光地となっています。毎日早朝から市場が開催されており、ボードの上で果物や食事、衣服、雑貨などが売られています。ベトナム社会主義共和国での楽しみ方の一つは衣服や靴をオーダーメイドすること、伝統衣装のアオザイを着ることです。食に関しては、地方によってベトナム料理の味が異なり北部はさっぱり（やや塩分多い）・中部は辛口・南部は甘口と言った特徴があります。ベトナム料理でもローカルな店から高級料理レストランもあるので、違いを楽しむことができます。



<世界遺産(フエ)で民族衣装のアオザイを着た時の1枚>

③ 活動内容について

カントー総合中央病院に赴任してから約1年が経過しました。活動当初、職場から作業療法技術を伝達してほしい、ベトナム語を上達してほしいと要望があり、この1年間は職場環境作り・育成指導・勉強会等に力を入れてきました。半年間はボランティアのベトナム語が上達せず、患者さんに説明しながら治療をすることが難しかったのですが、毎日上司に日記を添削してもらい語学の向上に努めました。その他に治療道具を作成し、道具を整理整頓するために棚を購入し職場環境を整えていきました。治療道具を作成する際に注意したことは①無駄な資源にならないようにする②現地の患者さんに合わせた道具を作成する③私の任期満了後、スタッフが使用できるような道具を作ることを心がけました。現在、十分な治療道具が揃ったので、次は治療道具の管理方法、使い方のマニュアルを作成している段階です。



<家族と患者に指導しているところ>

育成指導や勉強会は計画通りに実施中ですが、未だ完全に作業療法技術が移転できているとは言えません。C/P（カウンターパート：任地での活動上のパートナー）は治療道具を使用できているものの、目的や対象疾患・回復の時期によって治療道具を選定できていない、まだベッド上でのリハビリが多く早期リハビリが出来ていないのが現状です。そのため、2019年の1月から早期リハビリの普及や作業療法の広報活動も含めた小集団のリハビリも実施してきました。



<小集団のリハビリ。遊びを通して社会参加の促進や生活習慣の再構築、身体機能の維持等を測る>

ベトナム全体に言えることが、医療の発展は乏しく医学的知識・基礎的な評価、治療が不十分な状態が続いていることです。その背景には、ベトナムの文化が強く影響していると思われれます。年功序列が強い文化のため上司の命令には逆らえない、独自のルールを作ってしまうという特徴があります。そのため、間違った知識を認識していることが多いのではないかと感じています。そのほかに規格外のこと（応用）をすることはとても苦手な印象を受けます。問題は山積みですが、残りの1年間は作業療法を普及するためにも他職種の理解・家族の理解が必要になってくると考えています。

④ 今後について

青年海外協力隊は原則2年間の派遣となっており、私は2020年7月1日に任期が終了する予定です。任期を終えた後は、ベトナムでの経験を活かし再び日本で作業療法士として働く予定です。作業療法士の働く分野は身障領域・発達領域・精神領域・老年期領域と大きく4つに別れています。その中でも在宅分野でのリハビリテーションに興味がありますが、正直なところ自分でも帰国後の活動は明確に分からない状態です。

任期終了後は、ベトナムと日本を繋ぐことができるように何らかの活動が出来ればと考えております。

ここまで読んで下さりありがとうございました。



<オーストラリアの実習生が来た時に撮った写真>

氏名：濱田瑞葵（はまだ みずき）

出身：高知県高知市

職種：作業療法士

派遣国：ベトナム社会主義共和国

配属先：カントー総合中央病院

隊次：2018年度1次隊（2018年7月2日～2020年7月1日）